

黄鶴楼

崔顥

昔人已に黄鶴に乗じて去り

此の地空しく余す黄鶴楼

黄鶴一たび去りて復た返らず

白雲千載空しく悠悠

晴川歴歴たり漢陽の樹

芳草萋萋たり鸚鵡洲

日暮郷関何れの処か是なる

煙波江上人をして愁へしむ

昔人己に乘_ニ黄鶴_ニ去_リ

此地空_{シク}余_ス黄鶴楼

黄鶴一_{タビ}去_{リテ}不_ズ復_タ返_ラ

白雲千載空_{シク}悠悠

晴川歴_{タリ}歴_{タリ}漢陽_ノ樹

芳草萋_{タリ}萋_{タリ}鸚鵡洲

日暮郷関何_{レノ}処_カ是_{ナル}

煙波江上使_{シム}人_ヲ愁_ヘ

2【昔人】昔の人。ここでは、仙人のこと。

3【空しく余す】ただむなしく残されているだけだ。

4【復た返らず】二度と戻ってこない。

5【千載】千年たった今も。

6【悠悠】ゆったりとした様子。

7【歴歴】はつきりと見える様子。

8【漢陽】長江を挟んだ対岸にある町。

9【芳草】香りのよい草花。

10【萋萋】草が盛んに生い茂る様子。

11【鸚鵡洲】長江にあった中州。

12【郷関何れの処か是なる】故郷はどこか。

13【煙波江上】立ちこめるもやが長江を包み込み。

14【人をして愁へしむ】私を悲しい気持ちにさせる。

◆崔顥「長恨歌」中国の唐時代の詩人。

〈詩の原文は『新書漢文大系6 唐詩選』による。〉